

GCN通信



～逸見さん近影～

～理事の紹介～

逸見 一郎 (へんみ いちろう) さん、「副理事長」

東京都世田谷区出身の44歳。身長180cm超、体重0.1t超という著しい身体的特徴ですが、ホモ・サピエンスの範囲で納まっているつもりです。

ここ10年で多くの環境保全にかかわる法律や計画が出来ましたが一向に自然環境の保全は進みませんし、生物多様性も低下が止まりません。それは、この国の土地利用計画＝ランドデザインが上手く出来ていないからです。そして、それを実現するには、「地生態学を基礎として生態系を捉えること」、「膨大な基盤情報と自然環境情報をGISを用いて電子地図の上に整理し、データベース化すること」が必要なのです。そこで、このNPOにおいてそのようなことができる人材を育成し、実際に全国でGISデータベースを作って共有化すること、さらに、土地利用計画を決める裁定をくだす人材＝「土地利用の総合的コーディネーター」を多く育成するということが私の夢になったのです。

今、やっとこのようなことを実現する社会的「機」が熟したと考えています。様々なニーズに応じた講習会、GISテキスト出版、地生態学の技術書出版、地生態系診断士の資格制度創出、GISのポータルサイト構築等上げたらきりがありません。

2005年は、この夢を共有する仲間をどんどん増やしてゆきたい。皆さん、私たちと一緒に、ひとつひとつ夢を実現してゆきましょう。

～最近の動き～

1) 自然環境解析ユーザーのためのGISがわかる講習会(入門編)実施中

GIS(地理情報システム)の仕組みとソフトの使い方、さらに自然環境分野での利用方法について学ぶ夜間の連続講座を、東京環境工科専門学校との共同主催で、10月18日と29日の2日間に分けて開催いたしました。おかげさまで、第1回目は大好評で終了いたしました。来年1月15日に第2回目講座の開催が決まっております。

2) ESRIジャパン社のGISコミュニティフォーラム2004 特別プログラム講演

GIS—その自然環境への応用

- 増澤 直(副理事長)「地域の生態系保全へのGISの活用—カタクリの潜在生育地の推定—(基盤環境(地形・地質・植生)の組み合わせからカタクリの潜在生息地の推定を試みた。)
- 井本 郁子(副理事長)「エコロジカルネットワーク計画のための自然環境情報」(地域における生態的な空間構造を地図化することでエコロジカルネットワーク計画への基礎情報とする。)
- 吉村 暢彦(NPO法人 エン・ビジョン環境保全事務所)「ネイチャーベース構想について」(自然環境についての膨大なデータを整理集積し公開する構想の紹介)

3) 社団法人日本環境アセスメント協会 平成16年度第1回公開セミナーにて講演

- 小泉 武栄(理事長)「環境アセスメント技術者のための地生態学入門」
「地生態学」では、地質や地形をベースにしてその上に乗る植生や動物群集を順次把握します。当日はさまざまな事例をあげて、地域の自然を把握する方法を紹介しました。
- 増澤 直(副理事長)「地生態学を基礎とした環境ベースマップの作成について」
「地生態学」を基礎として地域の生態系の構造に着目し、基盤環境(地形・地質・植生)の組み合わせから「環境類型区分図」を作成し、これを用いてアセスの早い段階での地域の自然環境の大きな把握や注目種の絞込などを行う手法を解説しました。

～会員交流会について～

今年の秋口から、会員交流会を開き、様々な話題提供や、交流を深めてまいりました。まだ、東京近郊メンバーの集まりにしかかっておりませんが、今後、関西圏や札幌圏など会員の集中するところでも、独自に展開されることを期待します。とくにウルサイ規定はありません。誰でも幹事、話題提供者と場所を手配し、MLにお知らせと結果報告を流すという大原則さえ守られれば、どんな集まりにされてもいいでしょう（単なる飲み会では困りますが）。

第1回 10月2日 於 青山エボ庵

出席者：逸見・辻村・増澤・井本・平城・杉村・吉田

まず逸見副理事長から、釧路で8月に実施されたGIS活用講座についての報告がなされ、当日の盛況ぶりや、講座内容が紹介されました。また、辻村理事より「地生態学って？」という話題提供があり、景観生態学との違いの有無や基礎学問と応用科学についてなど、多岐にわたる議論がなされました。今後、教科書などの出版事業の必要性が確認されました。（辻村）

第2回 10月4日 於 CCS社会議室

出席者：今木・井本・濱田・逸見・松林・増澤・平城・吉田

在米会員の今木さんから、CommEnSpace（NPOコモンスペース）の活動や、NOAA（National Oceanic and atmospheric Administration）での仕事について、お話いただきました。以前は「森に棲む種を護る」ような活動が中心であったものが、最近は森の保護と水産資源の保全とを関連付けた話へと発展しているというようなことで、GISを使った水系保全の話をしていただきました。参加者からはアメリカのNPOの経営基盤に、質問が集中しました。意外にも政府系の仕事の受託は多くなく、ランドトラストなどの土地の取得を進めている保護団体の要請を受けての、GISを使用した資料作成などが重要な事業になっているようでした。（井本）

第3回 12月15日 於 神田学士会館

出席者：小泉・増澤・井本・逸見・松林・平城・吉田・八十島・梶並

○逸見副理事長から、「（仮称）上サロベツ自然再生協議会」への参加者公募に応募したことの報告。当会独自の基盤環境（地史）の解析から現在の環境要素の作用構造を把握するアプローチは、これまで全く欠けていたことなので、そこにGIS技術を引っさげて関わる意義は大きい。
○平城会員から、WWF助成金申請の概要報告。シデコブシのポテンシャルマップ作成手法の検討・検証や実際に作成したマップを基に地域生態系保全に関する計画提案を行う。併せて、今後この手の助成金申請を精力的に行い、NPOの活動資金確保の一助にする方針を確認。
○井本副理事長から、ESRI社の助成企画により、GISソフトArc Info が手に入ったことの報告。シデコブシの研究プロジェクトでの活用を期待。関連して、来夏のESRIユーザ会で、何か発表したい。
○その他：淡路景観園芸学校での講習会企画・準備状況の報告、GISテキスト出版の進捗状況報告など。（吉田）

★理事会（兼新年会）の日時と場所を次のように決めました

【日時】 1月8日（土） 13時～17時（会場使用可能時間）

【場所】 東京飯田橋 東京ボランティア・市民活動センターC会議室
会員の方々の理事会傍聴を認める方向で検討中です。

★ホームページ改良の設計図を作っています

会の活動を広くアピールし、見る人にわかりやすく親しみやすいホームページを目指して、当会設立前より青木理事にはいろいろとお骨折りいただいております。

さらなる親しみやすいホームページを目指して青木理事を中心として、制作プロジェクトを立ち上げました。11月23日に第1回の制作会議を開催し、重要コンテンツの洗い出しなどを行いました。12月15日の交流会でも、各コンテンツ担当者が責任を持って説明文やレイアウトを考えよう、ということになりました。今後、「見せるホームページ」制作の経験豊富な八十島会員を中核に設計・工事・管理を進めていく方針です。リニューアルオープンはいつ？

～事務局冬季休業～

冬休みです。事務局も、
12月28日～1月3日まで、
冬休みにさせていただきます。

～編集後記～

月刊を予定していましたが、季刊になってしまいました。不定期ではありますが、今後はもう少し頻繁に発刊しようと思っています。（辻村）

編集・発行 NPO法人 地域自然情報ネットワーク 事務局
〒198-0052 青梅市長淵 1丁目372の2-710(吉田方)

TEL/FAX 0428-24-5120 (IP)

URL : <http://www.boreas.dti.ne.jp/~kent/gcn/>

吉田 : PONTAX@e-mail.jp

辻村 : chihiro-tsujimura@nifty.com

